

読谷

中学校

争いのない未来へ

読谷中学校二年

比嘉

茉喜

ロシアがウクライナに侵攻して五月。今年
 の二月にロシアがウクライナに攻めこんだ
 時、私はニュースを見て
 「二十一世紀の今の時代に
 と、とてもミッドウエストを受けました。正直、今
 の世界で戦争なんて起きないと思っていたの
 で、衝撃的でした。」

また、学校や病院などが攻撃され、ウクラ

イナの人たちが命かけて避難している様子に
 心が痛み、悲しい気持ちになりました。
 ですが、戦争が始まって五月。日々、攻
 撃された街の様子や報道されることか日常と
 なってしまいました。ある日、なんとなくつ
 けていたテレビで、ウクライナとロシアの戦
 争反対のデモをしている人が
 「この戦争について世の中の関心がどんどん
 低くなっている」
 と言っている言葉に、私ははたとさせられま

した。まさに私がそうだったからです。
正直、日々、繰り返し報道されるウワライ
の映像を見ていると気分が落ち込み、あま
り考えたくないと思っでています。

しかし、そうやって起こっている現実から
目を背けることは、世界で起きている事実か
ら逃げていけるだけなのです。今思えば、一年
生の平和学習の時に平和ガイドである比嘉涼
子さんも、「無関心」であることの危険性を
おっしゃっていただきました。

比嘉さんは、七十七年前の悲劇を繰り返さ
ず、平和を守り続けていくために、生かされ
た命を大切にし、今を生きる私たち一人一人
が歴史を胸に刻み、どう行動すべきかをしっ
かり考えることが重要と、お話しして下さい
ました。

それまで、私は「平和を口守りたい」とい
う部分が足りず、なんとなく戦争のことを次
の世代に伝えることが大事だと考えました。

でも、比嘉さんの「平和を守るためには、
 自分の命を大切にすることはもちろん、相手
 の命も守るために、いじめや差別をせずそれ
 ぞれの個性を認め合うことが大切だ」という
 言葉で、私は伝えていくことだけではなく、
 自ら行動することも大切だと思いました。
 そのことを踏まえ、今回の戦争では、世界
 の国々がフォーチニ大統領に「戦争はいけない
 と声を上げることも大切だと思えます。そし
 て、世界中で反戦デモが起きたり、制裁を行
 ったりしていることで、ロシアは早く戦争の
 おろかさにごくくべきだとも思いました。
 ロシアとウクライナの戦争をきっかけに、
 私は改めて平和学習の大切さを感じました。
 ですが、一部の人は平和であることが、
 当たり前「前」になっっていて、戦争をどこか他人
 事のように感じているように思います。
 そんな人達こそ、今ウクライナで起きてい
 る現実をしっかりと見つめ、平和とは何かをし
 っかり考えるべきです。

読谷

中学校

平和学習でも学んだように、一人一人が戦争を他人事ではなく、自分事として考えることが大切です。そうすることによって、争いのない未来を創ることができるのです。